

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
18

振興協議会だより

〔発行日〕平成28年4月21日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600

新潟圏域ジオパークガイド意見交換会

3月19日、新潟圏域ジオパークのガイドの会における運営資金、ガイド料、移動手段、保険等に関する情報交換を目的とした交流会に参加しました。

ここでは、ガイド養成について一部、紹介します。糸魚川GPでは、ジオツアー、ジオパーク講座の他に自主研修等があります。ガイドにも初級・中級・達人等のランクがあり、検定料が必要です。佐渡GPでは、市民講座、認定ガイド講座、準ガイドそして、ガイド講座の講習、実技等があり、それぞれの講座等の関係が説明を聞く限り、複雑なシステムだと思いました。

当ジオパークでは、ガイド認定検定（初級）の合格をもって、認定ガイドになります。しかし、ガイドの実技経験が乏しい方がほとんどであるため、認定後のガイド力の向上が何としても必要です。平成28年度のガイド養成では、ジオサイト巡り（ガイド養成講座）の中で、主体的にガイドを体験する場と時間を設定し、「進化するガイド養成」を視野に進めていきたいと思います。



ジオパーク新潟連携推進ミーティング



3月19日、糸魚川市ヒスイ王国において糸魚川、佐渡、苗場山麓の3ジオパーク、そして県振興局のジオパーク担当者が集まり、7月に開催されるジオパーク新潟国際フォーラムのあとの連携について意見交換や協議が行われました。

まずは、ガイドさん同士や担当者同士の交流、情報交換、各ジオパークの特性を理解する必要性と、それぞれの立場で共存共栄の関係になれる方法の模索をし、そのための協議を定期的に行うことが提案されました。

また、学芸員や専門員からは、火焰型土器、ヒスイ、玉造り、雪国文化などの共通文化をテーマにした取り組みも提案されました。

県からは、日本酒など、県民がわかりやすいテーマに焦点をあて、その裏にはジオパークがあることを気づかせる手法を検討し、観光連携および観光振興を進めて欲しいとの提案もありました。

今後も、同じ県内にあるジオパークとして、県内外にPRする活動を実施していこうとの統一見解を再確認しました。

ジオパーク新潟国際フォーラムプレイベント

3月20日、北陸新幹線糸魚川駅開業1周年記念イベントが開催されました。糸魚川駅にあるジオパルを会場に糸魚川、佐渡、苗場山麓の3ジオパークが集まり、各ジオパークのPR活動を実施しました。また、それぞれのジオパークの特徴を活かした体験ブースも設置されました。

糸魚川GPのプチジオトープ作り体験や佐渡GPの模擬金塊つかみ取り体験、苗場山麓GPのひょうたん細工体験を実施し、糸魚川市内の小学生に体験していただきました。併せて、苗場山麓GPのジオサイトを紹介する津南小学校生による動画もモニターで流し、7月に開催されるジオパーク新潟国際フォーラムも宣伝しました。当日は、糸魚川GPの学術奨励事業者による発表もあり、今後の展開も参考になるイベントになりました。今後、7月には新潟市内でも同様のプレイベントを開催し、国際フォーラムのPRに努める予定です。



学術指導委員会

3月18日に平成27年度第2回学術指導委員会を開催しました。小林達雄委員長から「4年に1度の再審査に向けて、調査研究の裾野を広げる必要がある」という言葉を受けて、委員会が始まりました。

平成27年度の学術研究奨励事業報告書が提出され、積極的な苗場山麓を探る研究を読み取ることができました。これらの概要については津南町教育委員会発行の『津南学』第5号に掲載される予定です。赤羽貞幸副委員長からは、「報告書提出に伴い関連論文目録（引用・参考文献）の提出を条件とすることで、事務局が苗場山麓に関わる学術論文目録の作成が容易になる」との発案を受けました。

また、事務局主導の研究である低地堆積物の調査で、貝坂段丘面の十二ノ木低地からAT火山灰層とDKP火山灰層にパックされた泥炭層が発見され、3万年以前および5.5万年以前の環境復元が可能であるとの研究報告が、卜部厚志委員から誌上報告という形でありました。

平成28年度学術研究奨励事業 採択

氏名（敬称略）	所 属	テーマ
中沢 謙吾	小滝復興プロジェクト	ジオサイト（No.54 小滝四ツ廻り遺河跡）周辺の多面的調査・研究のための現況測量と図面の作製
森下 来美	近畿大学農学研究所	苗場山麓ジオパークにおけるシナイモツゴ生息環境調査
大杉 周	信州大学 博士課程 山岳地域環境科学専攻	林床のシダ植物と林冠の植生の関係
中島 智美	千葉大学	苗場山麓の積雪上に生息する雪氷微生物や昆虫類の生態および環境との関係の解明
関谷 知裕	信州大学大学院理工学系研究科	苗場山における山岳溪流棲生物の遺伝構造の研究
涌井 泰二	菅沼を考える会	津南町菅沼集落の地形・地質・植生・歴史文化の研究

平成28年度学術研究奨励事業に対しては、7件の応募があり、その審査の結果、苗場山麓でしかできない研究を採択する方針が出され、7件中6件の申請研究を採択しました。

全体協議では、山縣耕太郎委員から「HPはあまり観光に偏りすぎないように」さらには「説明看板などの優先順位を決め学説の調査と整理を行う必要がある」との意見が出されました。また、赤羽副委員長からは「学問は進化する。最新情報を収集し、多様な学説を理解・調査する必要がある」と指導を頂きました。これら指導を事務局は受け、これからの再審査に向けた活動を強化したいと考えます。最後に赤羽副委員長から「研究上の問題は現状であり、どんどん新しいことが判明する」とする本質的提言を頂き閉会しました。

苗場山麓ジオパークの申請書には「身の丈にあったジオパーク、進化するジオパーク」が謳われており、学術指導委員の先生方々から多くのことを学び、さらなる一步を歩み出したいと事務局員一同感じた委員会でありました。

絵解きジオパーク イラスト：鈴木夏海



早春の残雪期、スノーシューで見学できるこの岩壁の特徴は？

地元新聞を利用した人気のエコバック

津南町の社会福祉法人 つなん福祉会が運営する福祉施設就労継続支援B型すみれ工房では、地元の妻有新聞社から素材の提供を無償で受け、エコバックを作成しています。このエコバックについて取材をしてきました。

エコバック作りは、役割分担し、それぞれの部品を作り、組み立てているそうです。すみれ工房では、このエコバックに苗場山麓ジオパークのロゴマークを付け、ジオサイトの写真をラベルにした玉子せんべいを入れて販売しています。

このような連携は、栗駒山麓ジオパークで同商品を販売したことで、ジオパーク関係者から注目を浴びました。また、地元新聞を利用していることから町内外の人や旅行者などからも高い人気を得ています。

これまでも、町内のイベントなどに利用されていて、今後は野菜や米などを入れて販売する利用要望も来ているそうです。

すみれ工房 福原吉重施設長はぜひともこのエコバックを活用して欲しい、そして、今後も苗場山麓ジオパークに関連した商品を開発していきたいと熱く語ってくださいました。皆様もアイデアがありましたら、ぜひとも事務局までご連絡下さい。



エコバック付玉子せんべいはなじもんで販売しています

苗場山麓ジオパークのジオサイト

57 の見どころを随時紹介していきます

上野の大杉



所在地 津南町上野

種別 自然

上野集落のはずれにある「原の稻荷様」が祀られた塚の上に立つスギです。この塚は、墳丘状の土まんじゅう形をした塚で、その大きさから一里塚ではなく信仰上の塚で、お経を埋めた経塚と推測されます。

幹周6.5m、高さ30m、樹齢300～400年と推定される集合樹です。

昭和58年8月20日、津南町の天然記念物に指定されました。

雑魚川の大滝



所在地 栄村切明

種別 地質

雑魚川の上流にある滝で「おおぜん」と呼ばれています。高さ約20m、2段になっていて滝壺もありとても美しい滝です。

苗場山麓で一番古い結束層という地層の堅い変質した安山岩（凝灰角礫岩）が作った滝です。

奥志賀林道沿いの切明から約6kmのところの位置し、雑魚川沿いに残る原生林内の林道から滝に下りる道があります。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。

絵解きジオパーク その答えは

鳥甲溶岩流が堆積し、浸食された岩壁です。残雪期になるとカモシカウォッチングなどの自然観察をしながら、この「シシ穴」と呼ばれる岩壁に近づくことが出来ます。シシ穴とは、カモシカの穴、すなわち、カモシカの生息地という意味です。また、この岩壁は、石落しの岩壁と異なり、筍状に浸食されています。これは岩壁上から流れる雨水や雪崩によって浸食されたかと推考されるものであり、その岩壁上奥には幻の鳥甲湖が位置しています。

栗駒山麓ジオパーク認定記念フォーラム

3月27日、今年度認定された宮城県栗原市の栗駒山麓ジオパークにおいて開催された認定記念フォーラムに参加してきました。フォーラムでは、認定証のお披露目、基調講演、先行事例発表として糸魚川ユネスコジオパークの取り組み、地元小学生の学習成果、協議会専門員による調査研究報告、民俗芸能などのお披露目がありました。会場では、東北地方のジオパークや新潟圏域の糸魚川・佐渡・苗場山麓の3ジオパークが参加してのポスター掲示、チラシ・パンフレットの配布を実施しジオパークのPRを行いました。また、7月に開催する新潟国際フォーラムの宣伝も行いました。このフォーラムには、認定を目指している下北・鳥海山などの地域も参加していました。

栗駒山麓を紹介する展示や地質、自然、民俗をテーマとした体験も実施されていました。屋外では、各ジオパークの関連商品が販売され、苗場山麓の好月さんのお菓子「ジオこがし」や「柱状節理」、すみれ工房さんのエコバックつき玉子せんべいなどが販売されました。

認定証のお披露目など、地元への周知に重点が置かれ、1日で1000人ほどの来場者があり、小学生の発表もあったため幅広い世代の参加がありました。今後、苗場山麓ジオパークにおいてもこのような事業の開催の必要性を感じました。



栗駒山麓 GP の荒砥沢地すべりを再現するブースも人気でした

ジオパークガイド認定検定



3月26日、ガイド認定検定(初級)を実施しました。応募総数26人、当日受検者は23人(3人欠席)でした。今回の応募者の特徴としては、ガイド養成講座を受講された方の割合が6人(26%・前は44人(81%))と少なかったことです。つまり、検定試験のみ受検された方が多かったということです。合格者数は13名、合格率は60%という結果でした(平均得点は80点)。合格者の人数の内訳は、栄村5人、津南町4人、十日町市3人、川崎市1人でした。

検定問題については、津南の米の自給率、石垣田の〇〇百選に入る言葉、苗場山麓に人が住み始めた時代等がやや難しかったようです。今後のガイド講座(ジオサイト巡り)やガイド研修の参加を積極的に啓発し、受検者の増加を図りたいと考えています。

ガイド研修③「野外における危機対応」

2月14日、十日町消防署南分署から講師を迎え、「野外における危機対応」と題し、ガイド研修を実施しました。ガイドには、常に「事故が起こるかもしれない」という心構えが必要です。例えば、参加者の体調が急変、転倒し骨折、クマやハチなどに遭遇、植物に触れてかぶれる等々があげられます。これらに対して、適切な応急処置・対応をすることは、ガイドとして必要な技量となります。

はじめの30分余は、野外における危機対応に関する講演をして頂きました。事故は、不安定な状態に不安定な行為が重なると起きるということです。不安定な状態とは、服装や履物、施設設備や道具等の不備といった物理的な要因をいい、不安定な行為とは、「知らない」、「やれない」、「やらない」だそうです。骨折したときは、「安静に」、「冷やす」、「圧迫し」、「挙上」が原則だそうです。また、ハチ刺されでは素人が緊急時、エピペン注射を施せるかという議論が出ましたが、今のところ第三者は注射できないそうです。後半は、AEDの使い方をふくめ救命救急の実習を行いました。*平成28年度は、7月24日に同研修を予定しています。認定ガイドの方は、是非参加してください。



雪でつくった河岸段丘



3月12日に行われた津南雪まつり(大割野会場)にて、Tapが主催する「この指と一まれ!」の子どもたちが、今年も雪で河岸段丘を作ってくれました。メインステージ脇の雪山を削って各段丘を表現し、そこに願い事などを書いた紙コップキャンドルを並べて夕暮れとともに火を灯しました。完成後、みんな段丘上の上ってパチリ!ご来場の皆さんに津南をPRするよい機会となりました。ありがとうございました。